

② 考 察

4年が、一番難しいと感じた単元は、3年で学習した「□をつかった式」であり、53.0%の児童が難しさを感じている（グラフ7）。この単元は、数量関係を□などを用いて式で表したり、それをよんだりすることをねらいとしている。この内容は、5年で学習する、「文字と式」の学習につながっていくものである。

5年では、4年で学習した「がい数」が一番難しい単元としてあげられており、45.0%の児童が難しさを感じている（グラフ8）。教科書では、がい数処理として、主に「四捨五入」を取り上げている。

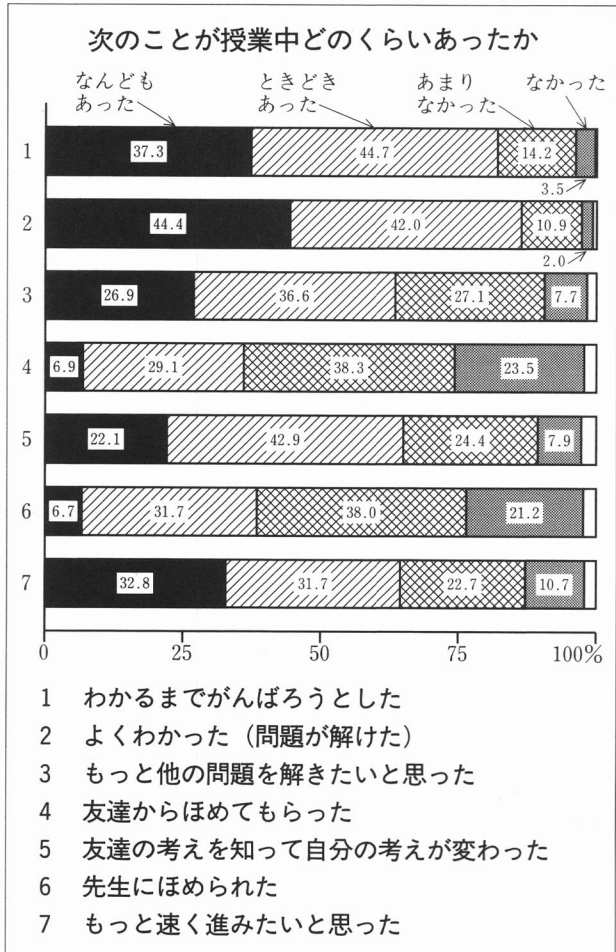
6年については、学習した単元の中で一番難しいと感じた単元が、5年で学習した「単位量当たりの大きさ」^{注3}である（グラフ9）。45.0%の児童が難しさを感じている。その理由は、「異種の2つの量の割合」の学習が児童にとって難しいと考えられる。この他にも、5年で学習する「文字と式」（37.3%）、「百分率とグラフ」（35.3%）、「体積」（34.7%）、「倍数と約数」（34.3%）などに難しさを感じている。

(4) 算数の学習に対する自主性、授業に対する期待など

① 調査結果

次のグラフは、算数の学習に対する自主性、授業に対する期待などに関する調査結果である。

グラフ10



② 考 察

「わかるまでがんばろうとした」「よくわかった (問題が解けた)」の2つの項目における「なんどもあった」と「ときどきあった」を合わせた肯定的な回答は、それぞれ82.0%、86.4%である。しかし、「もっと他の問題を解きたいと思った」の問いにおける肯定的な回答は、63.5%である。「よくわかった (問題が解けた)」と感じる児童が86.4%であることを考えると、さらに他の問題に挑戦してみようとする意欲づけが必要であろう。

「友達の考えを知って、自分の考えが変わった」における肯定的な回答は、65.0%である。

算数の授業中「友達からほめられた」「先生にほめられた」ことが、「なんどもあった」「ときどきあった」と感じている児童が、それぞれ36.0%、38.4%である。

しかし、「先生にほめられた」ことがないと感じて

注3 「学力到達度調査研究報告書」の「小学校5年算数」の結果を見ると、「単位量当たりの大きさ」の問題は、県の通過率（正答率）が19%、全国を100とした場合、全国比73である。